

大学教授
うちだのぶこ
内田 伸子さん

長きにわたり発達心理学の研究をされ、現在も大学で教鞭を執られている内田伸子さんに、子どもの成長にとっての遊びの重要性について伺いました。人間の脳のメカニズムについて、大規模な調査を経て結論に達した子どもの発達に関する研究についてなど、まるで大学の講義に参加しているような、興味深いお話を聞かせていただきました。最後に、日頃から多くの子どもたちと関わっている児童館や放課後児童クラブの職員に向けてのメッセージもいただきました。



子どもにとっての遊びとは 脳を快適な状態にしてくれる大切なもの

子どもにとって遊びとは？

私は、小さいときから目に見えないものに関心がありました。高校時代は化学が大好きでずっと実験をしているような、当時では珍しい「リケジョ」だったんですよ。「人間の知能のメカニズムを探るために、言語と認識の関連について学びたい」との思いから大学、大学院へと進みました。この研究の対象となるのは、脳が完成段階の大人ではなく、脳が作り上げられる過程にある幼い子どもです。このようなきっかけから、赤ちゃんから幼児を対象とした調査や実験を重ね、人間の知能のメカニズムを探る研究を続けてまいりました。

遊びは、子どもの成長にとって重要ですが、その重要性についてお話ししましょう。人間を含む高等脊椎動物の脳には、快・不快感情を感知する扁桃体という部位があり、子どもが主体的に遊んでいるときには、この部位が快適な状態にあります。誰かに強制されてではなく、自分の遊びたいように遊んで、「楽しいなあ」と感じると、扁桃体の近くにある記憶を保存する役割をもつ海馬が活性化され、楽しい体験の記憶が知識として蓄えられていくのです。叱られながらやった勉強が身につかないのは、扁桃体が不快感でいっぱいになつて海馬が働けなくなるからです。

遊びとは、仕事と対立する概念ではなく、なまけることを意味するものでもありません。子どもにとっての遊びとは、自発的な活動であり、扁桃体を快適な感情で満たして海馬を活性化させる、脳をすごくいい状態にしてくれる大切なものなのです。

親子一緒に絵本の世界で遊ぶ

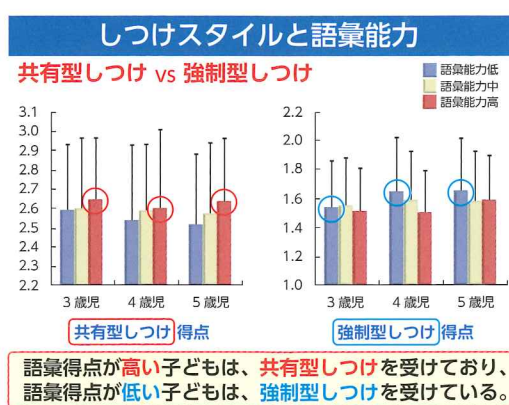
経済格差は子どもの発達にどのような影響を及ぼしているかということに興味をもち、幼児の読み書き

のときからおこなってほしいですね。

なぜならこれは、文字や言葉を覚えるためのものではなく、絵本の世界へ親子で一緒に入っている、素敵なふれあいの時間だからです。また、子どもが字が読めるようになって、「一人で読みなさい」ではなく、子どもにとってなじみのある親御さんの声で、語りかけるようにして読んでほしいのです。親子で一緒に同じ絵本の世界を味わって、感想を話し合うのもいいですね。

児童館は子どもの安全基地に

最近、児童館や放課後児童クラブのカリキュラムを開発いたしました。一緒に開発に携わった先生が、ある放課後児童クラブで模擬授業をされたときに、見学に行きました。そこ



は、障害児も利用している放課後児童クラブで、その日はアスペルガー症候群のお子さんがいました。先生が、「私の名前は、あういえいおです」と自己紹介をすると、子どもたちはみんなポカーンとしているんだけど、アスペルガー症候群の子が、「あ、母音だ」と言ったんです。先生は、「すごいね！母音を知っているの？」。その後、その子は先生の助手のようになって、みんなのスターになりました。

計算の文章問題をつくるというゲームのような授業では、わざと「ウンチ」のような汚い言葉を使ったり、「ハゲのジジイが……」なんていう文章をつくる子がたくさんいました。学校の授業だったら、こんなことは言えないですよね。学校では言えないことを言うのは、そのことで発散しているんだと思うんです。私は、児童館や放課後児童クラブは、学校とは違う「自分を出せる場だ」というふうにとらえています。

ですから、そこで子どもたちと関わる職員の方々も、学校のような「教え、教えられる関係ではなく、「子どもたちと一緒に楽しむ関係」をつくってほしいと思います。子どもたちの多様性を大事にして、どの子にもいいところがあるということを確認して、一人ひとりと向き合ってくださいね。

Present

内田さんから、サイン入り著書のプレゼントです。抽選で1名の方に、『子育てに「もう遅い」はありません』をお贈りします。



HP「コドモネクスト」<http://kodomo-next.jp>に加え、郵便はがきでもご応募いただけます。はがきに、①会員・非会員②関心のあったコーナー③ご感想④お名前⑤郵便番号⑥住所⑦電話番号⑧ご職業、をご記入のうえご投函ください。8月15日必着です。宛先：〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-15-7F (一財)児童健全育成推進財団 広報部

それから私は、子どもへの働きかけ方として、「3つのH」の言葉がけが必要だと思っています。3つのHとは、「ほめる」「はげます」「視野をひろげる」です。子どもたちがうれしくなるような、楽しくなるような言葉をかけて、子どもたちの脳を快感でいっぱいにしていただきたいのです。児童館や放課後児童クラブは、学校から家に帰るまでのひとときを過ごす、ほっとできる空間です。子どもたちが心を休められる安全基地のような存在であってほしいと願っています。